

**一般講演 I****座長：静岡県立総合病院 吉村 耕治****1. 原三信病院泌尿器科における  
漢方処方の実態**

原三信病院 泌尿器科

○武井 実根雄、相島 真奈美、野村 博之、原 律子  
田中 祥子、志賀 健一郎、古賀 寛史、宮崎 啓成  
眞崎 拓朗、佐藤 暢晃、村上 知彦、三好 邦和  
宮崎 薫、一倉 晴彦、川原 一朗、山口 秋人  
内藤 誠二

泌尿器科領域においては高齢患者の慢性疾患が多いこともあり、漢方薬の処方を行う医師は少なくないが、どのような処方がなされているかを分析した報告は少ない。当科は様々な臨床経験の泌尿器科医が20名で外来診療にあたり、小児を除いて良性疾患から悪性疾患まで幅広い疾患に対応している施設である。このような施設で実際にどのような漢方薬が処方されているのか実態を調査したので報告する。

【対象と方法】2014年11月～2015年10月までの1年間に漢方薬を処方された患者をリストアップし、処方内容を分析した。

【結果】症例数は685例、男性292例、女性393例と女性患者に多く処方されていた。年齢は平均64歳(15～93歳)。処方された症例が多い順に猪苓湯183例、牛車腎気丸111例、桂枝加朮附湯42例、八味地黄丸40例、竜胆瀉肝湯40例、桂枝茯苓丸34例、大建中湯28例、補中益気湯24例、当帰芍薬散18例、芍薬甘草湯17例、五苓散15例、十全大補湯15例、清心蓮子飲15例など全46種類が処方されていた。処方内容を性別で見ると男性では牛車腎気丸77例、八味地黄丸36例、猪苓湯33例、桂枝茯苓丸30例、大建中湯19例など31種類が処方されていたのに対し、女性では猪苓湯150例、桂枝加朮附湯36例、牛車腎気丸34例、竜胆瀉肝湯30例、補中益気湯17例、清心蓮子飲12例、当帰芍薬散10例、芍薬甘草湯10例、その他38種類が処方されていた。

また漢方薬を処方している医師は20名全員であるが、医師A 230例、医師B 93例、医師C 71例、医師D 50例、医師E 44例と上位5人で488例と全体の71%を処方していた。医師Aは31種、医師Bは24種を処方していたが、他は10種未満と処方のバリエーションは少なかった。

【結論】20名の泌尿器科医全員が漢方を処方していたが、多くの処方を使い分けられる医師は少ない状況であった。猪苓湯と牛車腎気丸は下部尿路症を訴える男女に広く処方されていた。男性では八味地黄丸、女性では桂枝加朮附湯が多いのはそれぞれ前立腺肥大症、間質性膀胱炎の患者が多いことを反映してのことと思われた。泌尿器科医に広く知られていないが対応に苦慮する症状に有効な漢方処方も報告されていることから、今後は少しずつ処方の幅を広げられるようになることが期待されると考えた。